

Continuous Delivery Foundation 2023 Annual Report を共有できることを喜ばしく思います。本レポートでは、私たちのコミュニティとプロジェクトの成果に焦点を当て、コミュニティが推進する主要な取り組みをまとめることを目的としています。

このレポートは、Continuous Delivery(継続的デリバリー)を利用可能にし、ソフトウェア デリバリーの未来を推進するためにコミュニティが講じた重要なステップを記載しています。

プロジェクト

コミュニティ

出版物

メンバー

イベント&アウトリーチ

来年

## プロジェクト

現在活動中の 8 つの CDF(Continuous Delivery Foundation)オープン ソース プロジェクトは、懸命に活動してきました。2023 年のハイライトは次の通りです:

### CDEvents



- CDEvents は、Jenkins、Spinnaker、Testkube、Tekton によってサポートされています。Argo、Flux、Harbor、Guac が進行中です。
- CDEvent の視覚化のための PoC とともに、Go および Java の SDK が強化されました。Python、Rust、.NET SDK は登場予定です。
- 仕様では: インシデント、テスト、およびアーティファクト署名イベント。イベントを相互につなぐ、より強力な方法を開発中です。
- CNCF TAG、OpenSSF、CNOE.io、VSMI、End-user blog、KubeCon、Open-Source Summit など、CDEvents に関するコラボレーションとコミュニケーションが本格的に始まりました。
- CDEvents プロジェクト ガバナンスが、正式化されつつあります。

### Jenkins



- [Jenkins Contributor Spotlight](#) サイトが公開されました。トップ コントリビューターを紹介しながら、Jenkins の未来を形作る人々を紹介します。
- 新しいテーマ、アイコン、メニュー、フォーム、ボタンによりユーザー体験が改善されました。Jenkins では、以下がサポートされるようになりました:
  - ダーク モードをサポートし、よりモダンな外観と操作性を実現しました。
  - Java 11 と [Java 17](#) に [Java 21](#) を加え、[将来の Java バージョン](#)との互換性のための明確なパスが確保されました。
- [Plugin health score](#) は、各 Jenkins プラグインの [plugins.jenkins.io](#) で利用できるようになりました。プラグインの管理者は、スコアを改善の指針として使用できます。プラグインのユーザーは、スコアを利用して積極的に保守されているプラグインを選択できます。

- Jenkins のインフラストラクチャー チームは、世界中の Jenkins ジョブ数が増加しているにもかかわらず、Jenkins のインフラストラクチャー コストを削減することに成功しました。彼らは、[DigitalOcean](#) や Cloudflare などの新しいインフラストラクチャー スポンサーを募集し、Continuous Delivery Foundation、CloudBees、JFrog、Microsoft などの長年のスポンサーからの寄付をより効果的に使用する方法を見つけました。
- 新しい貢献者は、次のようなコミュニティー プロジェクトを通じてプロジェクトに歓迎されています。
  - [Google Summer of Code](#) (最終レポート [1](#)、[2](#)、[3](#)、[4](#))
  - [Hacktoberfest](#) (400 件以上のプル リクエストを融合、80 を超える新しいコントリビューターが参加)

## Jenkins X



- Lighthouse を経由した GitHub 呼び出しを削減
- Tekton Git Resolver の貢献を調査
- External Secrets の移行について調査
- CI/CD の速度を向上 (機能は維持しながら、Boot Job を高速化)
- Azure の更新 (Terraform のバージョンと複数のサービス プリンシパルをサポート)

## Ortelius



- [Ortelius が初の技術監視委員会 \(Ortelius Technology Oversight Committee\) を結成しました。](#)
- [RedHat の Emporous Universal Object Reference が Ortelius のサブ プロジェクトとなりました。](#)
- [Ortelius はコードへの貢献を容易にする新しいアーキテクチャを発表しました。](#)
- [Ortelius の貢献者である Saim Safder 氏と Steve Taylor 氏が CDF Top Contributor Awards を受賞しました。](#)

## Screwdriver



- 2023 年に 322 以上のプル リクエストを融合しました。
- ユーザビリティの改善
  - アーティファクトのビルド ビューアーで、ページのクエリ パラメーターを使用する HTML ページが表示できるようになりました。
  - パイプライン ワークフロー グラフのビルドにおけるジョブ名の幅など、ユーザー設定を管理するためのユーザー設定ページが追加されました。
  - [テンプレート](#) にパイプラインのメトリックスを追加しました。これにより、テンプレートの所有者はテンプレートの使用状況を追跡できるようになりました。
  - Slack 通知のマルチ ワークスペース サポートにより、パイプラインのビルドで複数の Slack ワークスペースに通知を発行できるようになりました。
- ビルド
  - ビルドポッドは、メトリックス収集のために、より多くのメタデータを Kubernetes ラベルとして公開しました。
  - Screwdriver k8s ビルド クラスタをグループ化する機能を追加し、SD 管理者がオンプレミスとクラウドのクラスタを効率的に管理できるようになりました。
  - 定期的なジョブの重複スケジューリングを防ぐために、ビルドに Redis ジョブ ロックを追加しました。
- 内部構造: Node.js は v18 にアップグレードされ、Ember.js は v4.x にアップグレードされました。



## Shipwright

- [cdCon2023](#) に積極的に参加し、コミュニティとのコラボレーション促進とコミュニティへの最新状態の紹介をしました。
- [Hacktoberfest2023](#) に参加し、グローバルなオープンソースコミュニティに貢献しました。
- [ベータ版 API のリリース](#) に成功し、プロジェクト成熟度が高いことを示せました。



## Spinnaker

- [アカウント管理 API](#)
- Spinnaker モダナイゼーションの取り組みについては[こちら](#)をご覧ください
- [CDEvent](#) の実装
- [資源の削減](#)



## Tekton

- 多くの[サプライチェーン セキュリティ機能](#)
- Artifact Hub の Tekton カタログ
- いくつかの機能がベータ版と安定版に昇格
- マトリクスとスケジューリング機能の改善
- 多くの新規[大規模導入者](#)

## Hacktoberfest と GSoC

CD Foundation のプロジェクトは 4 年連続で Hacktoberfest に参加し、Jenkins プロジェクトは 7 年目となる 2023 年に再び Google Summer of Code のメンター組織となりました(来年も同様の見込みです)。



## トレーニングと認定資格

プロジェクトのコミュニティと Linux Foundation の Training and Certification のおかげで、Tekton の新しいトレーニングと新しい SkillCred が利用できるようになりました。



# メンバー

## 新メンバー

今年、CD Foundation は TestKube を新しいメンバーとして迎え、メンバーは合計 29 になりました。

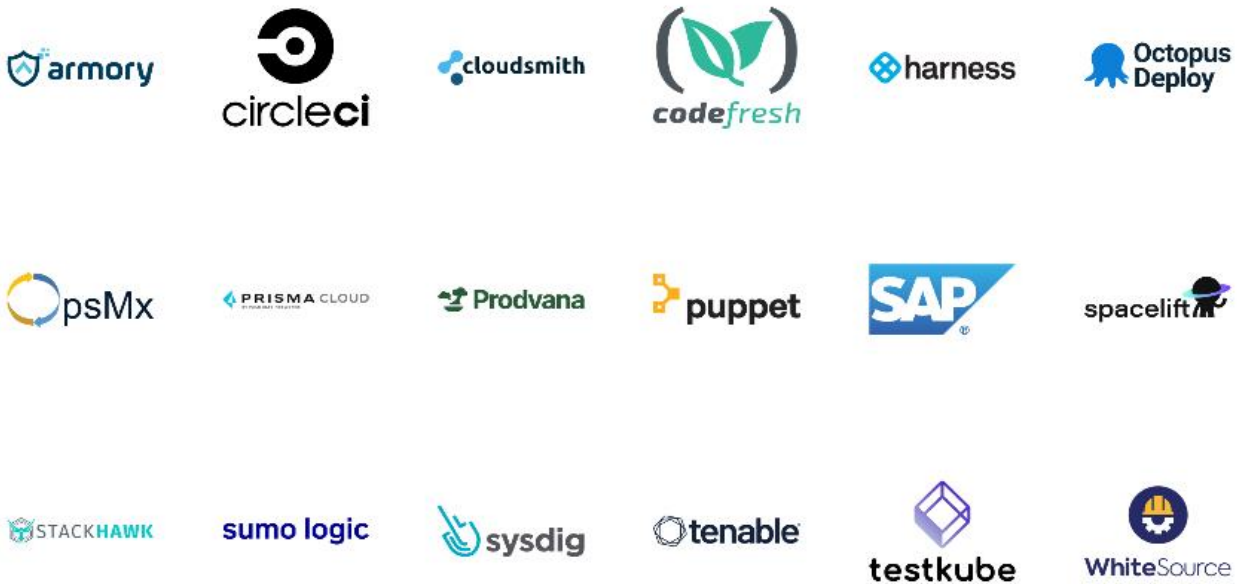
### CDF Members - Premier (4)



### CDF Members - End User (6)



### CDF Members - General (18)



### CDF Members - Associate (1)



## コミュニティ

### アンバサダー

[2023年のCDFアンバサダー](#) コホートが4月に発表されました！

CD Foundation の情報を広めるためのコミュニティの継続的なサポートと、圧倒的な数のアンバサダー申請に感謝します。



### アワード

今年5月のcdConでは、第3回CDFコミュニティアワードの授賞式を主催しました。

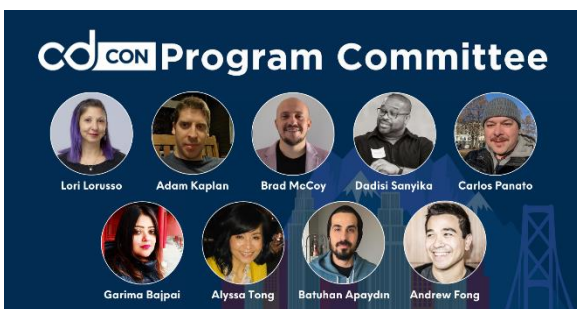
[2023年の受賞者をご覧ください。](#)



### 選挙と委員会

今年、コミュニティはCDFのさまざまな委員会の議席を再選しました。各選挙では、議席数よりもはるかに多くの候補者が立候補しました。

- [技術監視委員会 \(Technical Oversight Committee\)](#)
- [運営委員会 \(Governing Board\)](#)
- プログラム委員会 (Program Committees)
  - [cdCon](#)
  - [CD Mini Summit](#)
  - [cdCon Japan](#)



### コミュニティ間のコラボレーション

コミュニティからの要望に応え、実現しました！今年参加したコミュニティ間のコラボレーションは次のとおりです：

- VSM コンソーシアム (VSM 相互運用性)
- OpenMainframe プロジェクト (メインフレーム向け CD)
- CNCF
  - [cdCon+GitOpsCon](#)
  - [GitOps 認定資格](#)
  - [GitOps マイクロサーベイ](#)



### 連続的スポットライト

年末にCDFは、素晴らしいコミュニティメンバーを個別にスポットライトを当てる新しい取り組みを開始しました。





## イベント&アウトリーチ

### イベント

今年は、北米で第3回 cdCon を主催しました。また、Open Source Summit Europe と同時開催で第2回 CD Mini Summit を開催し、今年12月には東京で初の cdCon Japan を開催しました。

さらに、[FOSDEM 2023](#) や [ONE Summit Regional Day](#) などの外部イベントにも参加しました。

#### cdCon+GitOpsCon

5月8日～9日 | カナダ、バンクーバー  
録画は[こちら](#)

#### CD Mini Summit

9月18日 | スペイン、ビルバオ  
プログラム⇒[今すぐ登録](#)

#### cdCon Japan

12月4日 | 東京、日本  
[提案募集](#) 締切り9月10日



## Continuous Delivery (継続的デリバリー) ワークショップ シリーズ

CDF コミュニティーの取り組みの1つに、[Continuous Delivery \(継続的デリバリー\) ワークショップ](#) があります。コミュニティによって、コミュニティのために運営されています。Steve Taylor 氏による最初のワークショップは、[Securing Your CI/CD Pipeline From Code to Deployment \(コードからデプロイメントまであなたの CI/CD パイプラインを保護する\)](#) という内容で、6月22日に YouTube でライブ配信され、265回以上再生されました。



### Techstrong TV

2022年以來、私たちは Techstrong と協力して、さまざまなテクノロジー、オープンソース、ベストプラクティス、および将来のトレンドについてコミュニティの思想的リーダーにインタビューしながら、継続的デリバリーのあらゆる側面にスポットライトを当てる [The CD Pipeline - Continuously Delivering Software from A to Z \(CD パイプライン - 継続的デリバリー ソフトウェアの A から Z\)](#) を主催しています。主なトピックには、継続的デリバリー イベント、相互運用性、ソフトウェア サプライチェーンなどがあります。





外出先でも聴きたいですか？すべての人気のあるポッドキャスト プラットフォームで CD Pipeline Show をチェックしてください。

今年はこれまでに5つのエピソードを開催しました。

- エピソード 4: [相互運用性の課題と解決策](#)
- エピソード 5: [継続的デリバリーとエンド ユーザー コミュニティ](#)
- エピソード 6: [cdCon Sneak Peek](#)
- エピソード 7: [継続的デリバリーの近況 2023](#)
- エピソード 8: [継続的デリバリーにおけるテストの進歩](#)
- エピソード 9: [ソフトウェア イノベーションのための生成 AI の解放](#)

## 出版物

### 継続的デリバリーの状況レポート

今年、2021 年開始したシリーズの第 4 弾「[State of Continuous Delivery Report \(継続的デリバリーの近況\)](#)」を発行します。これは大変好評を博しました！  
[ここで読んでください。](#)

[日本語バージョンの「継続的デリバリーの近況」はこちらで読んでください。](#)



### マスコミ報道

この報告書については、多くの報告書が書かれました。現在のリストは次のとおりです。

- [DevOps.com - CDF レポートで DevOps の成熟度の欠如が明らかに](#)
- [Forbes - ベスト オブ スイートまたはベスト オブ ブリード？ 利便性 vs. 有効性](#)
- [ITPro Today - CD Foundation の継続的デリバリーの近況レポートが DevOps の成長を示唆](#)
- [iTWire - DevOps の可観測性は開発者の開発速度を解放する鍵](#)
- [SD Times - レポート: DevOps の実践は増えているが、コード開発速度は変わらない](#)
- [SiliconANGLE - 継続的デリバリーのエコシステム: 相互運用性とセキュリティが主役](#)
- [TFIR - 最新の CD レポートが DevOps の実践が継続的に増加していることを示唆](#)

### CDF ユーザー ストーリー

CDF ユーザー ストーリー プログラムを 2 月に開始しました。合計 3 つを公開しました:

- [Fidelity Investments](#): Fidelity Investments のソフトウェア サプライチェーンの保護: 継続的デリバリーのセキュリティ実践を強化するプラットフォーム アプローチ
- [Ericsson](#): Ericsson における完全なエンドツーエンド CI/CD パイプラインの開発

- [Autodesk](#): グローバルな継続的デリバリーの合理化: Autodesk におけるディベロッパー リレーションズの自動化がもたらす影響



## ブログ記事

コミュニティと協力して、相互運用性、サプライチェーン セキュリティなど、CD のさまざまな側面に触れるいくつかのブログ記事を公開しました。

- [CDEvents の活用 - パイプラインの通知と承認のための仕様の活用](#)
- [OpenTofu による Infrastructure as Code \(IaC\) の管理](#)
- [Tekton Pipelines におけるコンテナ イメージ ビルドの高速化](#)
- [コンプライアンスの高い組織におけるオープン ソースの重要性](#)
- [SRE による CI/CD の進化 - 将来の展望](#)
- [Tekton と Tekton Chains による SLSA レベル 2 への到達](#)
- [開発チームの最適化: 実際のデータを使用して真の価値に焦点を当てる](#)
- [スケーラブルなインフラストラクチャーを構築および管理するための 10 の戦略](#)
- [CDEvents が CD パイプラインにおける検査を採用](#)

## ありがとうございます！

2023 年に私たちが共に成し遂げたすべての素晴らしいことを振り返って楽しんでいただければ幸いです。コメントやフィードバックは [info@cd.foundation](mailto:info@cd.foundation) でお待ちしております。

来年

## 2024 年にお会いしましょう

Open Source Summit North America の一環として、4 月 16 日から 18 日にワシントン州シアトルで開催される [cdCon 2024](#) に講演を提出することを忘れないでください。



[CDF ニュースレターと最新情報にサインアップ](#)



Copyright © 2024 CD Foundation The Linux Foundation®. All rights reserved.

The Linux Foundation はさまざまな商標を登録および使用しています。The Linux Foundation の商標一覧は[こちらのページ](#)でご確認いただけます。Linux は Linus Torvalds の登録商標です。

[利用条件](#) | [プライバシー](#) | [細則\(英文\)](#) | [商標](#) | [独占禁止法順守](#) | [Good Standing Policy](#)